

事業所名

ウイズ・ユース宮崎祇園

## 支援プログラム（参考様式）

作成日

令和

7年

3月

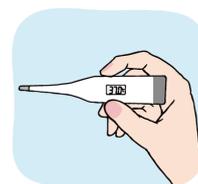
(別添資料1)

15日

法人（事業所）理念	居場所(日々の楽しいを増やします)・長所(日々の出来るを増やします)・自立(日々の出来たを増やします)						
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身ともに安心安全な環境(人・場所)を提供します。</li> <li>・さまざまな体験の提供を行い、こどもの発見や個性を大切にします。</li> <li>・遊びの中で療育活動を行い、日々の達成感につなげます。</li> </ul>						
営業時間	9時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	別紙					
	運動・感覚	別紙					
	認知・行動	別紙					
	言語 コミュニケーション 人間関係 社会性	別紙					
家族支援	日常でのお困りごとの相談や 児童の成長にともなった事例の共有や支援の方法をおひとりで抱えないようなサポートをしていきます			移行支援	保育園・学校の活動の中でお友達・集団での自身の立ち位置に課題と		
地域支援・地域連携	特別支援教育を提供する学校や教育機関と連携し、障害児の教育的ニーズに応じた支援を行います。また、一般の学校へのインクルージョン（包含）を推進します			職員の質の向上	経験や職種に応じた研修の参加を促しスキルアップの機会をつくって		
主な行事等	地域社会の一員として活動に参加できるよう、地域のイベントや活動の機会を提供します						

# ①健康・生活

具体的な達成目標	支援内容	支援プログラム
児童が日々の健康状態を受け入れることで、心身の健康の維持と向上を目指すこととする	健康状態をチェックすることで健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援していきます	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な心身の把握（体温測定）</li> <li>・定期的な心身の把握（気分把握）</li> </ul>
各児童に適した、身体的・精神的・社会適応できるスキルを向上させることで、社会での自立、健全かつ自発的な生活を営む能力を獲得することとする	日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれの子どもに適した身体的、精神的、社会的訓練を行います	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムの安定（定期的かつ定時に通所）</li> <li>・ソーシャルスキルトレーニング 総合支援</li> <li>・クッキングの実施</li> <li>・外出レクリエーション</li> <li>・地震・火災・水害など避難訓練</li> </ul>
基本的な身辺自立および個に応じた支援を行うことで、健全な発達と日常生活における自立を促進することとする	基本的な生活のリズムを身に付けられるようそれぞれの子どもに適した支援をしていきます	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着替えや身の回りの整理訓練</li> <li>・トイレトレーニング</li> <li>・手洗い・うがい・歯磨き</li> <li>・ライフスキルトレーニング 総合支援</li> <li>・食事自立訓練</li> </ul>
物の購入方法など実際の経験と知識を有し、将来自立した意志決定ができる能力を育成することとする	物を購入する流れを通して選択や購入方法についての経験と学びを提供します	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物（模擬店・実店）</li> </ul>
自己管理や生活環境の維持、社会的規範などを理解し実践できる力を育成することとする	掃除の習慣化や技術の向上を図ると同時に、マナーを学ぶ機会を提供します	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除</li> <li>・整理整頓</li> </ul>
健康状態の維持・改善を行い、健全な運動機能向上を図り、包括的な健康促進を目指すこととする	小さなサインを読み取り筋緊張を緩和する環境づくりと、遊び、姿勢管理により、健康状態の維持や改善に繋げる支援をしていきます	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸の管理（重心児）</li> <li>・食事の管理（重心児）</li> <li>・薬の管理（重心児）</li> <li>・生活介助（重心児）</li> </ul>



## ②運動・感覚

具体的な達成目標	支援内容	支援プログラム
<p>身体的機能を最適化し、全体的な発達と生活の質を向上させることとする</p>	<p>日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図るとともに視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援していきます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚、感触遊び</li> <li>・ダンス・体操・リズム、軽い運動を実施</li> <li>・椅子やマット、不安定な場所での姿勢保持</li> <li>・揺れや回転の動きがある遊び</li> <li>・ストレッチの実施</li> <li>・自立課題</li> <li>・公園遊具を活用し運動能力向上</li> </ul>
<p>音楽的な感受性を高め、社会的協調性や自己表現を向上させることとする</p>	<p>遊びや運動を通して音を聞くことによるリズム感や表現力・協調性を育む支援をしていきます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に合わせて体を動かす遊び・運動</li> </ul>
<p>心身のバランスを整え、心理的・生理的な全体的な安定性を促進することとする</p>	<p>音や温度・室内環境に配慮することで緊張状態を緩め感情コントロールや集中力を高め心身のバランスを整える支援をしていきます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒーリング、アプローチ、スキンシップ</li> <li>・クールダウンの部屋の活用</li> <li>・リラクゼーション</li> <li>・感覚過敏用の環境設定</li> </ul>
<p>発達特性やニーズに最適化された支援を実施し、効果的な問題解決と能力向上を図ることとする</p>	<p>それぞれの発達段階に合わせたアプローチを行うことで、課題に合った支援プログラムを提供します。また、スモールステップでの支援提供を実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画に基づいたアプローチ</li> </ul>



### ③認知・行動

具体的な達成目標	支援内容	支援プログラム
<p>変化に対する認識力を高め、適応力および問題解決能力を向上させることとする</p>	<p>日々の変化を確認する環境提供をして情報の取得、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援していきます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天気、気温、日付の把握と確認による感覚・数の認知形成</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1日の時間帯別活動を示すタイムテーブルの確認による時間の認知形成</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立移動訓練</li> </ul>
<p>認識したものの特性を精緻に識別し、概念的理解を深めるとともに、認知的処理能力の向上・複雑な知覚的課題への適応力を強化することとする</p>	<p>物の個数や形、重さや色、機能や属性の認知形成ができるように支援していきます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 粘土、スライム、砂遊びによる物質の変化と感覚の認知形成</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブロック、積み木、ジオボードによる空間把握の認知形成</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組み立て教具による空間把握の認知形成</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジョントレーニング</li> </ul>
<p>自身の認知的特徴を理解し、様々な事象への認知・行動の適応力を促進することとする</p>	<p>認知の偏り等の個々の特性に配慮しながら感覚形成ができるように支援していきます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感覚、認知の偏りに対するリフレーミング</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小集団でのゲームでの適切な行動形成、認知の偏りの配慮</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節の変化への興味などの感性形成のための外出・行動</li> </ul>



#### ④言語・コミュニケーション

具体的な達成目標	支援内容	支援プログラム
<p>自発的な表出やコミュニケーションスキルの発展を図ることとする</p>	<p>始まりの会や終わりの会等で具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけることにより、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援につなげます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お集まりで今日の気分・気持ちをプレゼンテーションでの感情表現 言語表出</li> <li>・終わりの会で活動振り返りと気持ちをプレゼンテーションでの感情表現 言語表出</li> <li>・個別または小集団での障害の特性に応じた読み書き</li> </ul>
<p>多様なコミュニケーション方法を獲得することにより、相互理解と表現力の発展を促進することとする</p>	<p>文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を活用し、コミュニケーション能力の向上のための支援をしていきます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールなどを絵や絵カードを使った視覚支援</li> <li>・絵カードを使った言語訓練（読み書き）</li> <li>・ワークを使った言語訓練（読み書き）</li> <li>・視覚的に「どこで何をするか」を絵などをを使い具体的に表示</li> <li>・視覚的に「何がどこにあるか」を絵などをを使い具体的に表示</li> </ul>
<p>児童の健全な愛着関係の構築と感情的な安定性の向上を行うこととする</p>	<p>ウィズ・ユアの共同研究者である愛着障害第一人者の米澤教授に学びキーパーソンの決定や反らし支援の実施などで愛着形成・愛着の修復支援をしていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛着障害 アプローチ</li> </ul>



## ⑤人間関係・社会性

具体的な達成目標	支援内容	支援プログラム
<p style="color: red;">社会的相互作用の向上・協力や役割分担・規範などの社会的スキルの体系的育成を目指すこととする</p>	<p>周囲の人と安定した関係を形成するための支援や無関心である一人遊びの状態から並行遊び、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援していきます</p>	・安心基地
		・アタッチメント形成（感情に寄り添う・自尊心を高める・認める）
		・見立て遊び、つもり遊び、ごっこ遊びの組み合わせ
		・一人遊び、並行遊び、連合的な遊びの組み合わせ
		・役割分担のある遊びなどでの環境把握
		・ルールの理解が必要な遊びや集団活動
		・イベントなどを通じた地域との交流
・外出レクリエーション		
<p style="color: red;">児童の自己認識を深め、情動調整力を強化し、心理的な適応力を向上させることとする</p>	<p>遊びを通して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援していきます</p>	・小グループ活動の提供
		・SST（ソーシャルスキルトレーニング）や絵本の読み聞かせにて相手の気持ちを知る事や自分の気持ちの構築を促す。

